

受理番号	陳情第 7 号	受理年月日	平成 3 0 年 1 2 月 6 日
件名	三学期制の堅持を求める陳情書		
陳情者	追立 文		
要 旨			
<p>私は、薩摩川内市の子どもたちの健やかな成長を願う保護者である。</p> <p>さて、この 1 0 月から教育委員会の二学期制導入説明会が各中学校区単位で開催されている。しかし、私は体調不良により在住校区の説明会に参加することができなかった。その後、学校からは説明会の資料を頂くこともなく、アンケート実施さえない。仕方がないので、私は友人に頼んで説明会の資料を手に入れ、内容を知った。</p> <p>資料によると「新学習指導要領による授業時数増加や先生たちの業務改善・働き方改革に対応するために二学期制を導入して、子どもたちにとってゆとりのある楽しい学校づくり、確かな学力の向上を目指す」とあり、メリットもいろいろ書いてあった。</p> <p>しかし、資料だけではどうしても納得ができなかったもので、個人的に調べたところ、様々なデメリットが見つかった。例えば「通知表は夏休み・冬休み前にもらう方が子どもたちの様子が細かく分かり、休み中に改善しやすい」「子どもはテスト範囲が狭い方が力を発揮しやすい」「数日間の短い秋休みでは、子どもの気持ちの切替えが難しい」「学習や運動に最も適した秋の時期に休ませるのはもったいない」「秋休みに子どもを預けるところがない」などが挙げられており、ますます不安が大きくなった。</p> <p>中でも私が最もショックを受けたのは、二学期制実施後、既に三学期制に戻している自治体・学校が結構多くあることだ。また、二学期制が日本で始まった後もその割合は低く、約 2 0 % 前後で推移しているということにも驚いた。</p> <p>私は「日本の気候・風土」にぴったり合い、私たちも慣れ親しんできた三学期制を、新しい二学期制に変更することには、大きな違和感と不安を感じる。</p> <p>教育委員会や先生方、大人にとっては制度が少し変わって仕事が楽になることもあるのかもしれないが、子どもたちにとっては小・中学生時代というのは、心も体も大きく成長し、学習面でも大変大事な時期だと思う。私は、一度しかない子どもたちの大切な時期を無駄に過ごさせたくはない。</p> <p>保護者の納得も得ないまま、また、地域住民への十分な説明や理解もないまま、こんなに大事な学校制度を簡単に変えるべきではないと思う。ゆえに、2 0 2 0 年度からの二学期制の一斉導入は行ってほしくない。私は現行の三学期制のままで教育環境の改善を望む。</p> <p>ついては、下記のとおり陳情する。</p>			

記

- 1 三学期制を堅持した上で教育環境の充実を図ること。
- 2 二学期制から三学期制に戻した自治体の経緯・理由を十分検証すること。
- 3 児童・生徒、保護者、地域住民の声を十分聴くこと。また、これまでの二学期制説明会で実施したアンケートを開示すること。
- 4 保護者や地域住民が納得できるように、「三学期制のデメリット」と「二学期制のメリット」を具体的かつ明確に説明すること。